

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	キネティック	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.480	△RG	0.040	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

テストボール

フレアーの幅 インチ

表面加工

箱出し状態

加工

ペーパー

ポリッシュ

研磨剤

PAPからピンとの距離

5 1/2 インチ

番

比較対照ボール：フェニックス・ニューブリッド

フレアーの幅 インチ

表面加工

箱出し状態

加工

ペーパー

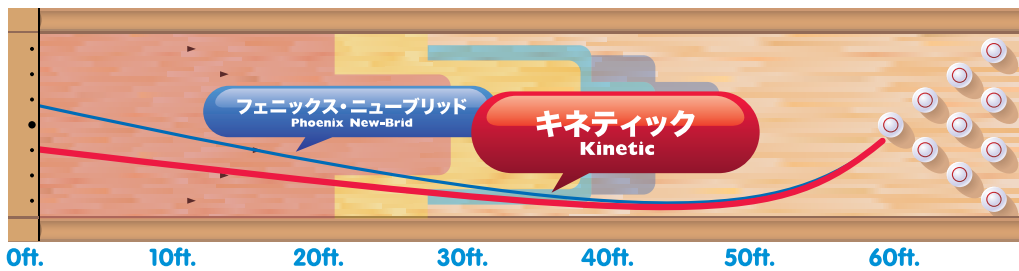
ポリッシュ

研磨剤

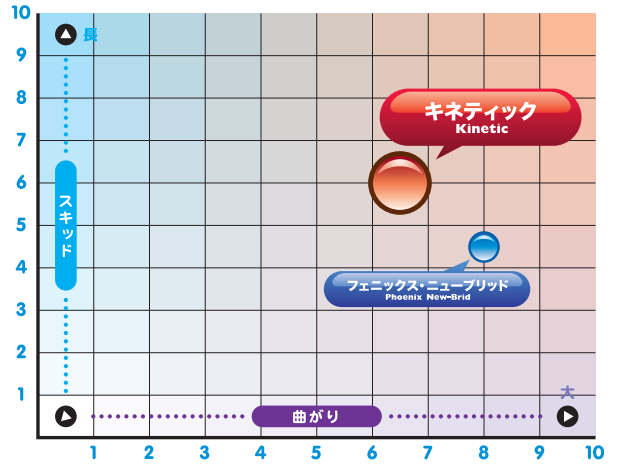
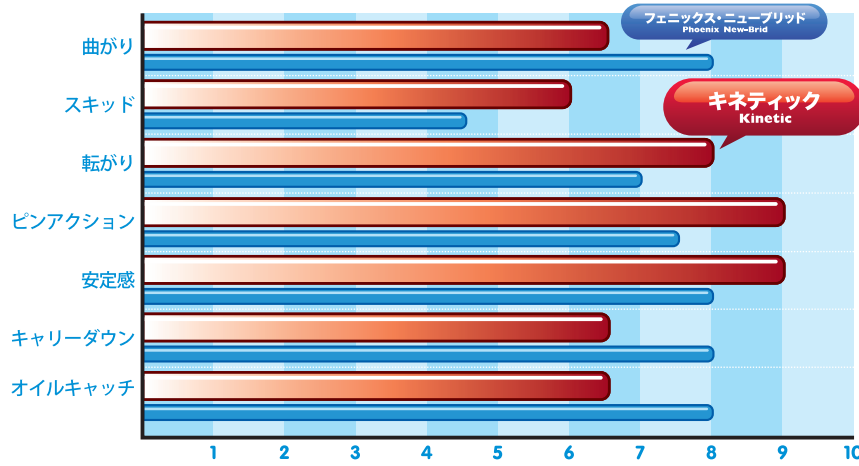
PAPからピンとの距離

5 1/4 インチ

番



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



ボールの評価

2007年8月13日全世界リリースのコロンビアの二つのボールと同時発売のトラック「キネティック」。ミディアムコンディションを中心にフリップ感が際立つスペックで仕上げてきました。投球した感じは新しいUMP Gen1 カバーストックはオイル上でのスキッド感はやや軽く感じますが、**ドライゾーンではしっかりとグリップする感じが強く、バックエンドでの強いフリップ感が印象的です。**フレアは細かく4インチ程度と、このカバーストックとの相性で判断すれば、明らかに**バックエンドでの強さを求めたボール**の性能であることが読み取れ、実際投球した感じの中でもピンヒットの強さが随所に見られます。

特に薄めでかき回すようなピンアクションが多く見られるということは、**ピンヒットまでパワーを温存できているということでしょう。**また、あえてフリップ感のリアクションイメージに仕上げた理由は、**曲がり始めてからの軌道を読みやすく、扱いやすさを求めたもの**で「派手さよりも実」を取ったこともこのボールの性能から読み取れます。私を感じる限りでは結果を示すピンアクションを中心に考えれば、この性能で十分で、ポケットへの角度を取るためのあえて暴れる原因となる余計なリアクションは不必要だと思います。

「名より実」。キネティックはトラック・テクノロジーの表れです。

特記事項

無類なピンアクション…。そうあるための現実。スキッド・ロール・フックに至るまでそうあるために、このキネティックは作りあげられました。